

学校設定科目「韓国語探究」の在り方

非常勤講師 李 貞植
T T 担当教諭 渡辺 徳子

1 はじめに

本校では、平成 24 年度の学科改編にともない多様な学校設定科目が開設された。その中の一つとして開講されたのが現在の「韓国語探究」の原形である「韓国語」である。もともとあった「中国語」の科目とともに、東アジアとの交流に着眼した外国語教育の充実と国際理解教育の推進を目的とし、今年度に至るまで授業を開講している。また、それと平行して中国・韓国への研修旅行も実施し、研修先は年によって様々ではあるが、毎年数名の生徒たちが参加している。

今年度、私は 3 年生の「韓国語探究」の授業で T T として指導することになった。実際には「韓国語」開設当時から講師として来て頂いている李先生が主となり生徒に授業を展開している。3 年生ということもあり、ほとんどの生徒が会話テスト等へ積極的に取り組む姿勢が見られた。昨年度の 1 年間で学習方法が身についているようで、韓国語を話すことに抵抗を感じている生徒は少ないようであった。やはり、語学の学習という面から考えても、2 年間の継続履修の意義は大きい。

では、実際に生徒たちは「韓国語探究」の授業を通して、何を学び、考え、生かしてくのか。2 年間の学びの成果を知るために、最後の授業を終えた生徒たちにアンケートを実施した。

2 生徒の声から

3 年生の授業の最後に 2 年間「韓国語探究」の授業を受けての率直な感想を書いてもらった。その一部をここで紹介したい。

- ・「初めて習う言語は、やはり覚えるまで大変だったし、難しかったです。スピーキングテストは、毎回真剣に取り組もうと頑張れたと思います。」
- ・「言葉の楽しむ幅が広がりました。」
- ・「原宿駅で切符の買い方が分からなくて困っていた韓国からの観光客の方のお手伝いをすることができた。」
- ・「将来自分が教える小さな子どもやその保護者が全員日本人とも限らず、外国の人もいると思うが、そのようなときに役立つと感じた。」
- ・「兵役など、日本との違いがあるのを知り、授業を受ける前より韓国への興味が深まった。」
- ・「韓国の文化についてもっと知りたくなった。」

生徒たちの回答の中には「難しかった。」といった声もやはりあったが、私が想像していたよりも生徒たちの意見は前向きだった。2 年間韓国語を学び、韓国の文化に触れることで、授業を受ける前よりも韓国という国そのものに対する興味が湧き起こっているようであった。「韓国語探究」

を選択する生徒たちの動機のほとんどが、アイドルや歌手、ドラマなどのいわゆるエンターテイメントへの興味感心であるのが実状だが、自分が好きなことをもっと知りたいという気持ちが、学ぶ意欲にもつながるのだと生徒たちを見ていて実感した。きっかけは何にしても、自分たちが生きている社会や文化だけではなく、他の文化や国々について学び、考えていくことは、社会へ出る準備段階にある生徒たちに意義のある学びとなっている。このような学習が出来ているのは、李先生が韓国人でありながらも、日本の文化を理解し、日本人である生徒たちに歩み寄り、彼らに適した指導を試行錯誤して下さったことが大きい。

最後に、授業担当者である李先生に授業の実際と今の想いを記していただき、今年度のまとめとしたい。

3 「韓国語探究」の時間の実際 ～李先生の言葉から～

T = 教師 S = 生徒

T. 今日は前の時間に予告した通り、第13課の本文の内容をもってスキット^{*}をやってもらいます。準備ができたペアーから始めましょうか？

(あちらこちらから、がやがやがやがや!!! 頑張ってる様子。)

S 1. オンジェ ハングゲ ワッソヨ? (いつ韓国に来ましたか)

S 2. サオㄹ チョエ ワッソヨ。(四月に来ました)

S 1. (エ〜エツトナンダッケ…。) ハングゴヌㄴ オリョッチ アナヨ?(韓国語は難しくありませんか)

S 2. イㄹ보네소드 죠그ㅁ 곱뻬헛소요。(日本でも少し勉強しました)

S 1. (S 2. 一小声で、ジョン마ㄹ) 죠ン마ㄹ 죠랴네요?(本当にうまいですね)

S 2. 아진 모로소요。(まだまだです)

S 1. S 2. どうですか。10点ですか。みせて!みせて!

*スキット…寸劇。会話の一例を示すために演じられるもの。

上記は今年3月に卒業した3年生の授業で、月一回ほどで回ってくるスキットの時間の様子をスケッチしたものです。個人的には生徒のみんなが一番生き生きしているように見える時間の内の一つです。

お互いに話者たちの姿を見比べたり、練習するふりをしながら本番中の者につまづいている部分を教えてやったり。ペアーを組めない生徒がいたりするとその方に向いてもう一度スキットをやったりして、気を利かせるところが垣間見られたりするからです。もちろん、なかなか覚えられなくてもう一回、やり直しを言われる生徒もいます。しかし、授業の最後には、みんなでハッ

ピーな充実感を覚えて終わることができます。しかし、毎回の授業が上記のような風景で終わるわけではないのでまだまだ力不足を覚えます。

中央高校で韓国語授業がスタートしたのは平成 25 年の 4 月で 2 年生の選択者を対象にする授業でした。若い学生たちとは大学生とも関り、教えた経験があるので無理なく進められると思いましたが、高校生と関る、教えることはこれまでのやり方では良い結果に結び付けられないと一か月が過ぎるごろから思うようになりました。

彼らは高校生なりの世界観を共有していて、また一人一人感受性が異なるので、みんなに満足してもらえる授業をと目標にしていた自分にとっては、彼らの世界観や感性に入り込むことができずもどかしさを覚えることもありました。それに加えて学年ごとの教室の雰囲気も毎年違うので、これまで自分がやってきた教え方が通用する部分もありましたが、場合によっては大きく修正しなくてはならないこともしばしばありました。

中央高校で韓国語を教えることになって 6 年間、1 年目を除いては 2 年生と 2 年から進級した 3 年生を対象に韓国語を教えてきました。いろいろな個性豊かな生徒たちを思い出します。また卒業後も、大学に進学して自分の韓国語講座をわざわざとってくれた多くの卒業生たち、街中で出くわして「あのとき、しっかり韓国語やっておけばよかった」と後悔する K・P O P に夢中の卒業生・・・等。

中でも記憶にのこるクラスといえば、今年 3 月に卒業した生徒たち 26 人ではないかと思います。2 年の授業がスタートして何か月間は、張り詰めた空気の中で静かに黙々と授業が進められたので、外国授業なのに静けさは問題ありと判断し生徒にアクティビティーなスキットをやらせ、短文をホワイトボードに書かせたりして、自分の演技や自分の考えたものを表現するように誘導したところ、しぶしぶ従う者もいましたが慣れていくにつれて積極的に参加するようになりました。最後の授業までにぎやかな雰囲気を演出することは自分にとっては幸いな経験でした。それは、教師の意図を把握してくれた生徒たちが雰囲気をリードしてくれたことやできる限り一人一人に寄り添おうとする気持ちがあいまった結果だと思っています。そのようなやる気を出させてくれたのも生徒たちです。

雑駁ながら韓国語探究の時間をスケッチして見ましたが、最後に、韓国語探究を進めて行くにあたり心強い助人になってくださった諸先生方に感謝の念をお伝えしたいと思います。

감사합니다.